

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600551		
法人名	株式会社 しらかば		
事業所名	グループホーム たんぼぼ (あい)		
所在地	帯広市東5条南14丁目1番地1		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念を念頭におき、職員各自が理念に少しでも近づける様、入居者様の生活を支援しています。  
 ・家庭的な雰囲気大切に、我が家のようにゆっくりと、穏やかに生活できる環境作りをしています。  
 ・秋には、入居者様と農家に行き、大根を掘り漬物を漬けています。  
 ・自由献立を実施し、季節に合わせたメニューや、普段と違う雰囲気、食事を提供しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600551&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600551&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年12月1日

<積極的な外出支援>

グループホームたんぼぼは、春にはグリーンパークでのお花見や動物園見学、秋には嵐山山荘での紅葉散策や中札内のピータン農園での大根の収穫等家族を交えながら季節毎に戸外へ出かけられるように支援している。また、地域の幼稚園・保育園との交流会や運動会への参加、町内会行事の夏祭りでの地元の人々との交流に努めている。

<個別ケアの実践>

利用者のADLの低下に伴い、全体での外出機会や役割事への支援が難しくなって来ているが、一人ひとりの状態を把握し、ゆっくりと本人のペースに合わせて役割事への支援や外出のタイミングを計りながら活動的に過ごせるように個別ケアの支援を実践している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所及び、リビングに理念を表示し、理念に基づいた介護計画を提示しています。また、ミーティングにて発表し、全職員共有し、実践に繋げています。	事業者及び管理者、職員は地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念をつくり上げており、ミーティングで話し合い、全員で共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏まつりや春と秋の清掃等町内会行事に参加し地域の人たちと交流を図っています。また、幼稚園の運動会に参加したり、園児がお遊戯を披露しにホームを訪れるなど交流を深めています。	日常的な散歩でも気軽に挨拶するように心掛け、町内会の清掃活動や夏祭りなどの地域行事にも積極的に参加している。また、近所の幼稚園の運動会や交流会での相互訪問も実施している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加する事で、認知症を患ってはいても、誰かの支援がある事により、普通に生活できる事を地域の方々に理解して頂けるよう発信しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、利用者家族、町内会役員や老人会の方、地域包括支援センター職員、ボランティアの方に参加して頂き、状況報告や話し合いを行い、意見を頂きながら、サービスに活かしています。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催され、事業所の活動報告、利用状況、ホーム行事の案内や報告など行い、意見交換しながら取り組んでいる。また、成年後見人制度などの説明会も実施している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会以外の交流は特に取り組んでいません。	市の担当者へ日頃の事業所の実情や取り組みを報告し、相談できる関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は内外の身体拘束廃止の勉強会に参加したり、身体拘束廃止委員会を開催し、理解を深め、身体拘束廃止宣言をホーム内に表示しています。また、玄関の施錠はせず、ドアの開閉時にブザーを使用し、常に見守り、安全に取り組んでいます。	身体拘束廃止について、外部の研修会参加や事業所内で勉強会を開催し、管理者及び全職員の認識の共有が行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会や研修等に参加したり、委員会やミーティング、職員会議等で情報を共有し、虐待に対して職員それぞれが最善の注意を払い防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用される状態の方はいませんが、いつでも支援できるように、職員は勉強会や研修へ参加しています。また、運営推進会議で必要性について話し合いをしたり、たんぼぼ独自でも講師を招き、勉強会を開催しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には十分な説明を行い、いつでも疑問が生じた時には説明をし、ご理解を頂くよう努めています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加の行事を設け、交流時に意見を頂けるよう働きかけています。また、御家族来所時には、状況報告をし、意見、要望を頂き、できる限り反映に努めています。施設内に意見箱の設置もしています。	家族の来訪時に意見や相談事をしやすい雰囲気作りを心掛け、そこでの意見は全体で話し合い結果を報告し、運営に反映させている。また、家族が参加する行事を設け外部者へ言い表せる機会を設けている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、ミーティングの際に、意見を聞いたり、日々、コミュニケーションを図り、意見を出し合い反映させるよう努めています。	管理者は、職員の意見や要望を言い易い環境作りを心掛け、会議や日常の会話を通じて職員からの気づきや意見、情報を取り入れながら運営に反映できるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、給与水準や資格手当等の整備を行い、勤続表彰も実施しています。各委員会等役割を持つ事により、やりがい等持てるよう努めています。また、人事考課を導入し、向上心、目標を持って働けるよう働きかけています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、社内研修、社外研修への参加を働きかけ、技術取得、知識向上に向け職員一人一人を支援しています。また、費用が掛かる研修も会社負担を実施しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の相互研修への参加や、管理者研修等でのネットワーク作りをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、本人から話を聞く機会を設けています。入居後も職員間で情報を共有し、話の傾聴、安心して頂けるための関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は特にご家族と話をする機会を作り、面会時にも状況報告をし、会話の中から困っている事、不安な事を聞けるようにし、関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状況及び精神状況、家族の思いを把握し、その時に必要な支援を見極め、必要としているサービスが提供できるように努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位を基本に考え、コミュニケーションを多くとる事により、一方的に物事を決定しないよう努めています。料理や盛り付け、掃除等も一緒に行う事により、共に暮らす関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を設け、絆を大切にしています。また、衣替えの時期にはご家族に相談したり、日々の様子を伝えながら、職員、家族が共に支えて行く関係を築いています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人や教え子、家族が気軽に訪問できる雰囲気作りに努めています。また、近所のスーパー等への買い物やお墓参りにも出かけています。	日常の会話から思い出話や近所のスーパーへの買い物や家族の協力を仰ぎながらお墓参りなど馴染みの場所を忘れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題を職員が提供し、仲の良い人だけではなく、他の人も話に入りやすくする等孤立しないよう努めています。また、洗濯物を干したり、届ける等互いに支え合えるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に遊びに来ていただけるよう働きかけています。また、本人、家族からの相談があれば、フォローし、相談に応じていけるように努めます。			
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、希望をくみ取るよう努め、職員間で情報を共有し、検討しています。また、出来る限り、希望に添えるよう取り組んでいます。	本人本位の生活が過ごせるように、家族や本人の意向や希望を把握していると共に全職員で情報を共有している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、サービス計画書等、資料を職員がいつでも閲覧できる場所に保管し、本人、家族との話などからこれまでの暮らしの把握に努めています。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりにより、出来る事、出来ない事、好きな事、嫌いな事等を把握し、生活記録や連絡ノートに残す事により、職員間で共有し全職員が現状把握に努めています。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、日々のミーティング等でケアの方法等について話し合い、意見やアイデアの反映に努めています。利用者の状態に変化があった時は現状にあった介護計画の見直し、作成をしています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見やカンファレンス、モニタリングを通じて、職員の意見を反映させ介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や日常会話等を生活記録に記載し、ミーティングの際に利用者の変化や行動、気づいた事等話し合い、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしています。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、その都度柔軟に対応するよう努めている。入院時ご家族が来る事が出来ない時は手続き、その他の対応等多機能的に取り組んでいます。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加や近所への買い物、散歩等を通じ、本人の持っている能力を活かしていけるよう支援しています。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った医療機関の受診をして頂いています。(協力病院以外は基本的には家族対応ですが、対応が出来ない時には職員対応しています)または、納得のもと、協力病院への変更により、ホーム対応してます。	利用前のかかりつけ医での医療が受けられるように、家族と協力しながら通院の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4日看護師が非常勤として来ており、状態報告や相談、指示を仰ぎ、適切な対応や看護を受けられるよう支援しています。また、勤務外の日でも、電話での相談をしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況等は、看護師、家族から情報を頂き、早期退院に向け話し合いを行っています。また、退院後のケアに繋げて行けるよう相談や情報も頂いています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者ご家族から重度化した際の意向確認を行っています。ご家族には、ホームで出来る事、出来ない事も含め話し合う機会を設けて、医療機関との連携を図り、方針を共有確認しています。また、特老や老健への申し込みについてもお話しています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、ホームが対応できる事を明確にして家族に伝えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、研修等にも参加する等、それに基づき対応できるよう努めています。また、急変の可能性のある方についてはその方のマニュアルを作成し、あわてないよう備えています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。全職員があわてる事なく入居者の避難誘導ができるよう訓練している。また、運営推進会議にて、見守りやお手伝い等をお願いしたい旨のお話しや呼びかけをしています。	消火設備業者の指導のもと地域の協力を得ながら緊急時に全ての職員が速やかに対応できるように利用者と共に実技を伴う火災避難訓練を年2回実施している。	職員全員が不測の事態を想定し、確実に初期消火や避難誘導が出来るように計画しているので、その実践に期待します。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ誘導や入浴介助時など、声掛けを工夫し、プライバシーを損ねない対応に努めています。	利用者一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛け、プライバシーや羞恥心の配慮にも十分に注意して支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切に日常の過ごし方の希望を取り入れ、散歩や買い物等支援している。また、寝る時間や洋服等も自己決定できるよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援する事を目標にはしているが、職員ペースでの傾向がある為、今後の課題ではあるが、入居者の思いを優先したケアにも努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は月1回の出張サービスを利用し、汚れた服は都度交換するよう支援しています。また、肩カット、希望により髪染めも支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っています。また、自由献立では季節を感じる献立や希望を取り入れた献立をたて、楽しみながら準備をしたり、美味しく食べて頂いています。	利用者の好みを把握し、献立に反映させるよう心掛け、普段から料理の下ごしらえや配膳の準備、食器洗いなど職員と利用者が一緒になって行っている。また、その日の体調に合わせた食事を提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では栄養士の管理のもとカロリー計算をしています。食事量、水分量はチェック表を通して栄養分が足りない方には、ラコールやエンシュアリキッド等を提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、見守りをし、出来ない方や不十分な方には職員介助をしています。また、就寝前に義歯を洗浄液へつけ清潔保持をしています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら時間をみて誘導や声掛けをする事により、失敗の回数を減らす事が出来ています。夜間帯も時間を見ながらの声掛けや習慣を活かしてトイレで排泄できる様支援しています。	一人ひとりの排泄の時間を記録し、排泄のサインやタイミングを見逃さないように心掛けている。また、排泄中も急かさないように時間をかけて座っていただくように心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士管理にて食物繊維を取り入れた食事の提供をし、運動や水分を多く摂るよう配慮しながら予防に努めています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本はホームで決めた日の入浴ではあるが、本人の希望や状況に合わせて時間帯を調整したり、本人が入りたくない時は次の日に入浴して頂き、個々の希望に沿った支援ができるよう努めています。	最低、週2回を基準として、入浴日は設定しているが、本人の希望に沿って自由に入浴できるように支援している。また、一人ひとりのタイミングや好みの温度を把握し入浴を楽しめるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じ、リビングで休まれたり、自室で休まれたりしている為、寝具等掛けたり、電気を消す等気持ちよく眠れるよう支援しています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服用して頂けるように職員が服用確認し、一人ひとりがどのような薬を服用しているか把握に努め、服薬の変更時には特に症状の変化や悪化等に注意し医師に報告するよう支援に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった役割を考え、洗濯たたみ、食器洗い、食事の準備等の手伝いをして頂いたり、外食、買い物、散歩やドライブ、各種行事等を計画し、楽しみや気分転換が出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて散歩やドライブを実施しています。一人でも散歩の希望があれば行けるよう支援しています。全員が参加できるように花見や紅葉見学、七夕等企画したり、地域の方々の支援もあり、町内会行事にも参加しています。	一人ひとりのその日の希望に添って、買い物や散歩など戸外に出かけられるように支援している。また、町内会の夏祭り等の行事に参加したり、家族の協力の下、お花見や動物園見学、紅葉散策などの外出機会を設けている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理している方も買い物バスを利用時は本人が支払できるよう支援しています。また、個人管理されている方は職員付添いで買い物へ行き、支払い出来るよう見守り等しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えに対応し、自由に電話を掛けられるよう支援しています。また、クリスマスカード等をだし、家族や友人との繋がりを大切に支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花や観葉植物をかざったり、毎月職員と一緒に季節に合った物を作成し、ホーム内にかざり、居心地良く過ごせるよう配慮しています。また、日差しが強い時はカーテンを閉める、不快な音に対しても根源を突き止め対応し、温度調整、湿度調整も都度行っています。	ホーム内は明るく、壁には季節に合わせた職員手作りのディスプレイや利用者の作品、花、行事の写真が飾られており、居心地よく過ごせる空間になっている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや居室前のベンチで気の合った人達でお話しをされていたり、独りになりたい時は居室で過ごされていたりと、自由にされています。状況により周囲の方々への声掛けや理解が頂けるよう支援しています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人、家族が自由に配置し、使い慣れた物や好みの物を持参されています。家族写真や花等を飾ったり、見やすい所にアルバムを置いたり、臭い等にも気を付け、居心地良く過ごす事ができるよう支援しています。	居室には、家族の写真や好みのもの、使い慣れた家具などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗しやすい表示については、分かりやすく表示する等配慮しています。手すりやエレベーターを使う事により、安全に移動でき、統一した介助、見守りをする事で自立した生活が送れるよう支援しています。		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600551		
法人名	株式会社 しらかば		
事業所名	グループホーム たんぼぼ(ゆめ)		
所在地	帯広市東5条南14丁目1番地1		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念を念頭におき、職員各自が理念に少しでも近づける様、入居者様の生活を支援しています。  
 ・家庭的な雰囲気大切に、我が家のようにゆっくりと、穏やかに生活できる環境作りをしています。  
 ・秋には、入居者様と農家に行き、大根を掘り漬物を漬けています。  
 ・自由献立を実施し、季節に合わせたメニューや、普段と違う雰囲気、食事を提供しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600551&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600551&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年12月1日

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所及び、リビングに理念を表示し、理念を念頭におき、実施するよう努めています。また、ミーティングにて発表し、全職員共有し、実践に繋げています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏まつりや春と秋の清掃等町内会行事に参加し地域の人たちと交流を図っています。また、幼稚園の運動会に参加したり、園児がお遊戯を披露しにホームを訪れるなどし交流を深めています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加する事で、認知症を患ってはいなくても、誰かの支援がある事により、普通に生活できる事を地域の方々に理解して頂けるよう発信しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、利用者家族、町内会役員や老人会の方、地域包括支援センター職員、ボランティアの方に参加して頂き、状況報告や話し合いを行い、意見を頂きながら、サービスに活かしています		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会以外の関わりはあまりないが、市の担当者へ事業所の実情を伝えたり、入居者個人の相談をして協力を仰いでいます。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は内外の身体拘束廃止の勉強会に参加したり、身体拘束廃止委員会を開催し、理解を深め、身体拘束廃止宣言をホーム内に表示しています。また、玄関の施錠はせず、ドアの開閉時にブザーを使用し、常に見守り、安全に取り組んでいます。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会や研修等に参加したり、委員会やミーティング、職員会議等で情報を共有し、「使ってはいけない言葉」を事務所に張り、注意を払い防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用される状態の方はいないが、いつでも支援できるよう、職員は勉強会や研修へ参加しています。また、運営推進会議で必要性について話し合いをしたり、たんぼぼ独自でも講師を招き、勉強会を開催しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には十分な説明を行い、いつでも疑問が生じた時には説明をし、ご理解を頂くよう努めています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加の行事を設け、交流時に意見を頂けるよう働きかけています。また、御家族来所時には、状況報告をし、意見、要望を頂き、できる限り反映に努めています。施設内に意見箱の設置もしています。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、ミーティングの際に、意見を聞いたり、日々、コミュニケーションを図り、意見を出し合い反映させるよう努めています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、給与水準や資格手当等の整備を行い、勤続表彰も実施しています。各委員会等役割を持つ事により、やりがい等持てるよう努めています。また、人事考課を導入し、向上心、目標を持って働けるよう働きかけています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、社内研修、社外研修への参加を働きかけ、技術取得、知識向上に向け職員一人一人を支援しています。また、費用が掛かる研修も会社負担を実施しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の相互研修への参加や、高齢者介護の勉強会へ参加し他のグループホーム職員との交流ができるよう取り組みを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、本人から話を聞く機会を設けています。入居後も職員間で情報を共有し、話の傾聴、安心して頂けるための関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は特にご家族と話をする機会を作り、面会時にも状況報告をし、会話の中から困っている事、不安な事を聞けるようにし、関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状況及び精神状況、家族の思いを把握し、その時に必要な支援を見極め、必要としているサービスが提供できるように努めています。また、他のサービス利用も支援しています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位を基本に考え、コミュニケーションを多くとる事により、一方的に物事を決定しないよう努めています。料理や盛り付け、掃除等も一緒に行う事により、共に暮らす関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を設け、絆を大切にしています。また、衣替えの時期にはご家族に相談したり、日々の様子を伝えながら、職員、家族が共に支えて行く関係を築いています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人や家族が気軽に訪問できる雰囲気作りに努めています。また、近所のスーパー等への買い物やお墓参りにも出かけて行けるようご家族に相談しながら支援に努めています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題を職員が提供し、仲の良い人だけではなく、他の人も話に入りやすくする等孤立しない様に努めています。また、洗濯物を干したり、届ける等互いに支え合えるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に遊びに来ていただけるよう働きかけています。また、本人、家族からの相談があればフォロー、相談に応じていけるよう努めています。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、希望をくみ取るよう努め、職員間で情報を共有し、検討しています。また、出来る限り、希望に添えるよう取り組んでいます。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、サービス計画書等、資料を職員がいつでも閲覧できる場所に保管し、本人、家族との話などからこれまでの暮らしの把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりにより、出来る事、出来ない事、好きな事、嫌いな事等を把握し、生活記録や連絡ノートに残す事により、職員間で共有し全職員が現状把握に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、日々のミーティング等でケアの方法等について話し合い、意見やアイデアの反映に努めています。利用者の状態に変化があった時は現状にあった介護計画の見直し、作成をしています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や日常会話等を生活記録に記載し、ミーティングの際に利用者の変化や行動、気づいた事等話し合い、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、その都度柔軟に対応するよう努めている。入院時ご家族が来る事が出来ない時は手続き、その他の対応等多機能的に取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加や近所への買い物、散歩等を通し、本人の持っている能力を活かしていけるよう支援しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った医療機関の受診をして頂いています。(協力病院以外は基本的には家族対応ですが、対応が出来ない時には職員対応しています)または、納得のもと、協力病院への変更により、ホーム対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4日看護師が非常勤として来ており、状態報告や相談、指示を仰ぎ、適切な対応や看護を受けられるよう支援しています。また、勤務外の日でも、電話での相談をしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況等は、看護師、家族から情報を頂き、早期退院に向け話し合いを行っています。また、退院後のケアに繋げて行けるよう相談や情報も頂いています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者ご家族から重度化した際の意向確認を行っています。ご家族には、ホームで出来る事、出来ない事も含め話し合う機会を設けて、医療機関との連携を図り、方針を共有確認しています。また、特老や老健への申し込みについてもお話しています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、研修等にも参加する等、それに基づき対応できるよう努めています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。全職員があわてる事なく入居者の避難誘導ができるよう訓練している。また、運営推進会議にて、見守りやお手伝い等をお願いしたい旨のお話しや呼びかけをしています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ誘導や入浴介助時など、声掛けを工夫し、プライバシーを損ねない対応に努めています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切に日常の過ごし方の希望を取り入れ、散歩や買い物等支援している。また、寝る時間や洋服等も自己決定できるよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援する事を目標にはしているが、職員ペースでの傾向がある為、今後の課題ではあるが、入居者の思いを優先したケアにも努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は月1回の出張サービスを利用しているが、希望の美容室へ行けるよう支援しています。汚れた服は都度交換するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っています。また、自由献立では季節を感じる献立や希望を取り入れた献立をたて、楽しみながら準備をしたり、美味しく食べて頂いています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では栄養士の管理のもとカロリー計算をしています。食事量、水分量はチェック表を通して栄養分が足りない方には、エンシュアキッド等を提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、見守りをし、出来ない方や不十分な方には職員介助をしています。また、就寝前に義歯を洗浄液へつけ清潔保持をしています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の様子をみながら排泄パターンを把握し、誘導や声掛けに配慮し、トイレで排泄できるよう支援しています。夜間帯も時間を見ながらの声掛けや習慣を活かして自立した排泄ができるよう努めています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士管理にて食物繊維を取り入れた食事の提供をし、運動や水分を多く摂るよう配慮しながら予防に努めています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本はホームで決めた日の入浴ではあるが、本人の希望や状況に合わせて時間帯を調整したり、本人が入りたくない時は次の日に入浴して頂き、個々の希望に沿った支援ができるよう努めています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯は散歩、運動等活動的に過ごして頂き、夜は安眠できるよう音や明かりに注意し気持ち良く眠れるよう支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服用して頂けるように職員が服用確認し、一人ひとりがどのような薬を服用しているか把握に努め、服薬の変更時には特に症状の変化や悪化等に注意し医師に報告するよう支援に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった役割を考え、洗濯たみ、食器洗い、食事の準備等の手伝いをして頂いたり、外食、買い物、散歩やドライブ、各種行事等を計画し、楽しみや気分転換が出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車いすに乗り散歩やドライブへ行ったり、家族と外出したりと、体調に合わせて行っています。全員が参加できるように花見、七夕見学や紅葉見学等企画したり、地域の方々の支援もあり、町内会行事にも参加しています。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理している方も買い物バスを利用時は本人が支払できるように支援しています。また、個人管理されている方は職員付添いで買い物へ行き、支払い出来るよう見守り等しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えに対応し、自由に電話を掛けられるよう支援しています。また、クリスマスカード等をだし、家族や友人との繋がりを大切に支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花や観葉植物を飾ったり、毎月職員と一緒に季節に合った物を制作し、ホーム内に飾り、居心地良く過ごせるよう配慮しています。また、日差しが強い時はカーテンを閉める、不快な音に対しても根源を突き止め対応し、温度調整、湿度調整も都度行っています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで気の合った人達でお話しをされていたり、おはじきをし、楽しまれていたり、独りになりたい時は居室で過ごされていたりと、自由にされています。状況により周囲の方々への声掛けや理解が頂けるよう支援しています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人、家族が自由に配置し、使い慣れた物や好みの物を持参されています。家族写真や花等を飾ったり、見やすい所にアルバムを置いたり、臭い等にも気を付け、居心地良く過ごす事ができるように支援しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗しやすい表示については、分かりやすく表示する等配慮しています。手すりやエレベーターを使う事により、安全に移動でき、統一した介助、見守りをする事で自立した生活が送れるよう支援しています。		



### 目標達成計画

事業所名 グループホーム たんぼぼ

作成日: 平成 23年 12月 1日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	内部研修、外部研修問わず研修は実施されているが、技術向上、知識向上の研修が多く、個々の対応の仕方や言葉遣いが出来ていない部分があり、今後の課題である。	全職員が入居者のサインを見逃す事なく、イライラしている時や怒っている時に対しての言葉遣いに気を付けられるようになる。	内部での研修体制を確立し、職員間でも言葉遣いについて注意ができる環境をととのえる	1年
2	35	年2回の避難訓練は実施されてはいるが、災害時の対応及び、各種機器の取り扱いが不十分である。	災害時全ての職員が適切な対応、誘導ができ、機器類も全職員が扱えるようになる。	定期的な避難訓練及び毎月個別にて機器類の取り扱い説明をし、全職員が周知できるようにする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。